

希学園 第399回 小3公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第399回公開テスト 小3国語 解説動画(2025年8月10日実施)	https://vimeo.com/1108037848/aedf4f2587

① 顔色
② 外れ
③ 来週

④ 毎朝
⑤ 台本

2
1
イ

2
④ ならぶ
⑥ なる

3
③ 運河
⑤ 建物
4
イ

5
ウ
6
I
2
II
1

3
1
I 人
間
II ヤ
マ
キ
ヤ

III 木
の
葉
の
お
金
IV 買
い
も
の

2
イ
3
ソ
フ
ト
ク
リ
ー
ム

4
B
イ
C
エ
5
わ
ら

配点	
①	各2点 × 5 = 10点
②~③	各5点 × 18 = 90点
<計> 100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「顔色」はここでは、顔の色つや、血色のこと。「人の顔色をうかがう」などを用いるときには表情、気持ちの表れた顔のようすという意味になる。②「外れ」はここでは、中心から離れた場所のこと。「外れくじ」などを用いるときには当たらないことという意味になる。③「来週」は今週の次の週、次週。「しんじよう」を正確に書くこと。④「毎朝」は毎日の朝、朝ごと。「毎」の四画めはつき出してはねる。中の部分を「母」のようにしてはいけない。⑤「台本」はテレビ・ラジオ・映画・演劇などの脚本。台詞や動作が書かれたもの。

② 文・吉田忠正 監修・桜田美津夫 『現地取材！世界のくらし17 オランダ』

- 1 世紀は百年をひと区切りとしている。西暦一〇〇年が一世紀で、西暦一〇〇一年〜一一〇〇年が十一世紀である。そして今は二十一世紀である。
- 2 ことばの終わりのほうが変化するのを活用という。走れ↓走る、新しく↓新しい、元気だった↓元気だ、〜ように〜ようなどが、もとの形である。活用することばは、もとの形を思いうかべられないと、うまく使うことができない。
- 3 ③ あとに続く部分で判断する。何にそって建物が建てられているのかと考えればよい。
- 4 ⑤ 同じくあとに続く部分で判断する。住まいや店として使われているのはどこなのかと考えればよい。
戦後の復興のときに新しく建てなおす地区もあった ↓ そのため ↓ モダンな建物が多い。
(前が原因で、あとが結果になっている)
- 5 この「はじめ」はおもなもの、代表的なものということである。ただし最初のものとは限らない。よってこの部分は、国会議事堂をはじめとして政府のおもな機関がいくつもある、という意味になる。
- 6 I アムステルダムもロッテルダムも「港町」とはつきり書いてある。しかしハーグには、港や船についての説明が全くない。
II アムステルダムは「国際都市」、ハーグは「国際的な都市」とはつきり書いてある。ロッテルダムの説明には「国際(的)」ということばはないが、「ヨーロッパ最大の貿易港」とあるので、これも「国際的な都市」である。

③ 茂市久美子 『このはのおかね、つかえます』 (設問の都合上、表記の一部を変更しています)

- 1 「おじいさん」が「木の葉のお金」を見つけていたことや、「こだぬき」の「ぼく、あれが、また、食べたいよ」の「また」ということばがヒントになっている。
 - I 「こだぬき」がねだったときに「母さん」は「人間にばけ」ていた。
 - II 同じく「ヤマキヤ」に出かけました」とあった。
 - III 使ったのはもちろん「木の葉のお金」である。ただし買うときには「お金」になっているが「レジ」にはいっているあいだに「木の葉」にもどってしまおうようである。
 - IV 「こだぬき」のために「ソフトクリーム」を買うのだが「四字」となると「買もの」である。
- 2 くびをかしげる……不思議なときや納得がいけないときにくびをかたむけるようす。
くびをよこにふる……承知しない、賛成しないことを示す動作。
- 3 「こだぬき」が「食べたい」ものである。
- 4 B 「しぶしぶ」は気が進まずいやいやながらするようす。「母さんは、いやといえません」とあったが、いざ行くと「もしばれたら、どうしよう」と思っている。「こだぬき」にねだられてしかたなしに買いに行っているのである。
C 「もしばれたら、どうしよう」と思っているときのことである。たいへんに不安なのである。
- 5 あとの「〜っていられなくなりました」から、それまでしていたことが答えになると見当をつけてほしい。また前には「しだいに」とある。これは「お金をうけとるとき」に「よおく気をつけるようにし」ていても、「いつの間にか、木の葉がまじっている」ことがくり返されているあいだに、ということである。「おじいさん」は「また、ハートの形をした木の葉がまじっていたとき」に「ふふつとわら」っていた。「おじいさん」は、一回めは「何かのひょうしに、まぎれこんだんどう」と思い、二回めには気のせいではないことがわかって面白いと思っている。しかし「こんなことが、なんどもつづく」ようになって、あわてているのである。